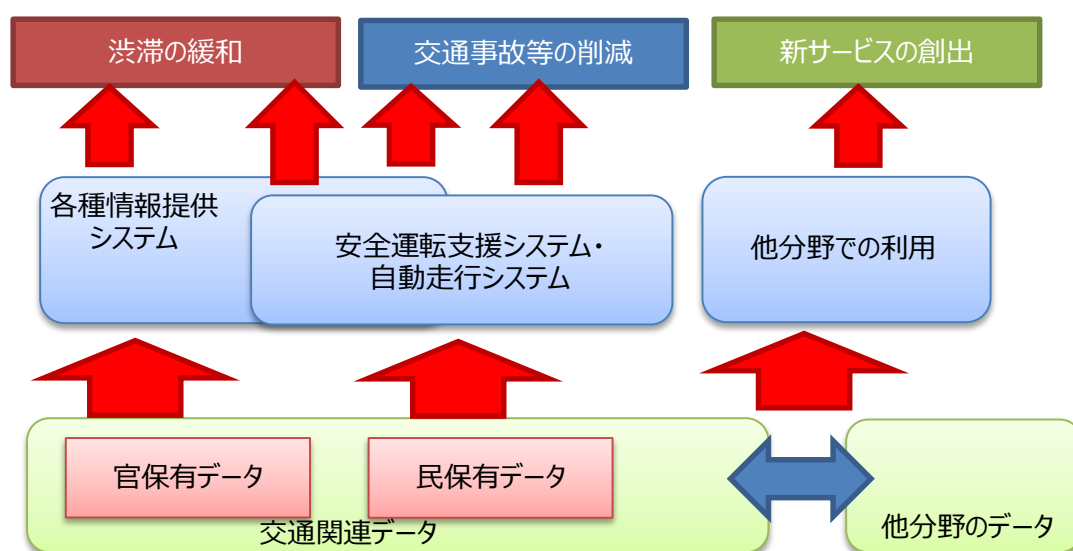


理の高度化に役立てられつつある。今後、自動車の IT 化・ネットワーク化に伴い、自動車に係るこのような多種多様なデータが蓄積される方向にある。

このように官民で収集される交通データは、交通渋滞の把握と対策の立案等に役立つだけでなく、近年、前章で記載された安全運転支援あるいは自動走行システムに必要な基盤としても位置付けられつつある。また、それらの情報は、公開・有効活用し、他の情報と連携することによって、観光産業、保険産業等に係る新たなサービスの創出にも寄与するものとして期待されている。

【図 9】 交通関連データと各種情報提供、安全運転支援システム
・ 自動走行システムとの関係（イメージ）



＜交通データ利活用に係る今後の方向＞

このような流れの中、交通データに関しては、今後、以下のような構造的変化が見込まれる。

- ・ ①IoT の進展：道路交通分野では、上述の通り、従来から道路上に設置された各種センサーを活用したデータの収集・活用が行われている。一方、IoT（Internet of Things）の流れの中、今後、位置・速度情報だけでなく、自動車に設置された各種センサー・カメラ等により収集された益々多量多様なデータが活用される方向にある。
- ・ ②水平分業化への移行：これまで、これらの官民が保有するシステムは、それぞれの目的を達成するために、垂直統合体制で個別に整備されてきた。しかしながら、今後、ビッグデータの時代においては、これらのアーキテクチャーは、今後水平分業化に移行し、各分野内はもちろんのこと、分野間を超えてデータが流通され、交通分野以外にも利用されることが期待される。